

酒もタバコもコーヒーも、飲まず吸わずに活動中

【月刊発行をめざす、江戸川区議会議員田中けん政治活動報告書】

月刊 田中けん



区議会「一人の会」

2014年12月1日から、所属会派を「一人の会」に変更しました。

3号連続特集！「第3回定例会一般質問」

3号連続特集！
2回目

第3回定例会代表質問

2014年9月29日

代表質問では9項目全てを質問しました。時系列の掲載では、質問文だけの紙面になってしまうため、読者が読みやすいように便宜上の構成は、一問一答形式に組み替えました。

号につき3つの質問と答弁を、3号連続で掲載しています。

今月号はその2回目です。



質問4：江戸川区の人口動態について

(1) 人口が減ることに対する評価

ここ数年、区内人口の増加が止まり、年によっては減少するなど、何年も前から予想されてきた人口減少（参考：下記表）が現実になってきました。実際そうになると、人口減を心配する区長発言が目立ってきました。

区長は十分ご承知だとは思いますが、都市問題とは正に人口過密を原因とする諸問題のことを言います。現在の江戸川区は、人口密度が14,000人/km²弱の過密都市です。

交通渋滞、駐車駐輪、騒音、振動、悪臭、地価の上昇、災害対策、タバコなど、都市問題と言われる個別具体の事例を少しでも緩和できる可能性が、むしろ現状のような人口停滞や減少期にこそあるのではないのでしょうか。

ピンチはチャンス。人口増の時代には、なかなか対応しきれなかった、これら諸問題を少しでも緩和し、解決に導けるような対応を区長に考えていただきたいのです。そのためには価値観の転換が必要です。

わかりやすい言い方をすれば「多くの人たちが不幸に暮らす町」ではなく「少ない人たちが豊かに暮らせる町」づくりへと、方針を変えることはできないのでしょうか。

江戸川区民の人口推移（過去10年）

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
江戸川区	657,767	660,914	665,633	671,122	675,500	678,517	680,380	677,633	674,944	676,598
(人)										
日本人	638,099	640,585	644,039	647,808	650,600	652,762	654,615	653,392	652,203	653,156
外国人	19,668	20,329	21,594	23,314	24,900	25,755	25,765	24,241	22,741	23,442

外国人：平成2年まで「外国人登録人口」、平成2年より日本人と同じ「住民基本台帳人口」（平成24年7月8日、外国人登録法の廃止、住民基本台帳法の一部改正による）

総合連絡先：03-3248-0888

弁護士による無料法律相談受付中

田中けん集会＊百語

1月1日(土)13:00～「百語新年会」
参加費：1,500円(飲酒希望者は3,000円)
場所：田中けん事務所(詳しくは4ページ目に！)

食事付きの集会です。

集会参加希望者は、事前連絡をお願いします。

質問4(1)に対する答弁



多田 区長

前々からのご持論でおっしゃることはよくわかりますが、人口減少によって過密を解消するチャンスでしょうというのが、一面ではそういうことが言えると思います。ですから、人口をそのために減らすということに積極的に取り組むということは、どうかと思います。

と思いますが、人口問題を地域でどのように考えるかということは、人口の動態によってその地域がどのように活力を生み出していくことができるかという問題だと思いますし、またそのことが自らの問題だけでなく、近隣でありますとか、あるいはさまざまな面で地域、社会全体に貢献できるという、そういう側面を持っていないといけないと思うんです。

ですから、これまで江戸川区がやはりとってきた政策というのは、どちらかといえば、人口が増えることを歓迎するというものでありましたが、しかし、これはどこまでも伸びていいということでは決してありません。限界があると思います。そろそろ限界だろうという認識は皆さんもお持ちだったかもしれませんが、私ももそう思っておりました。

しかし、一定の人口の中でやはり快適に過ごすことのできる空間をできるだけつくりたいと、こういうことでは都市を再開発して立体化をすることで、そういうことによって容積を増やす、増やすことによって空間をつくる、そういう努力はこれまでもいろいろ積み重ねてきたというわけでありまして、道路の幅員もそうでありまして、こういう都市の形そのものはやっぱり快適性ということを追求していくために人口がどうあれ、これからも探求していくべき課題だと思っております。

人口はそういうことについてくる問題とある意味では思いますが、これからの日本の人口減少が都市部にどういうふうにあらわれてくるかということにもよりますので、そうした動向を見ながら、こうした問題についてもちょっと考察を深めていくと、そういうことかなというふうに思っております。

各年4月1日現在

質問4：江戸川区の人口動態について (2) 定住外国人の増加



田中 けん

江戸川区の人口の推移を丁寧に見てみると、これまでの区長発言ではほとんど触れられていない興味深い現象に気がつきます。それは定住外国人の増加です。

江戸川区民の人口がここ数年68万人弱で推移しているにも関わらず、外国人定住者はここ20年の間に急激に増えてきました。平成26年4月1日現在、23,442名の外国人が江戸川区に定住しています。(参考:下記表)

一般的な現象として、外国人は都市にこそ多く住みます。それは日本のみならず海外の都市であっても同じ事です。そこでは文化的差異が原因となり、日常的なトラブルから暴動にいたるまで、色々な現象が起こりえます。

このような一般的事象に対して、2万3千人からの外国人を抱える行政の長としては、人口問題の中であって、近年急増している外国人をどのようにお考えでしょうか。

質問5：外国人学校保護者補助金について



田中 けん

次に外国人学校保護者補助金についておうかがいします。

これまで江戸川区は朝鮮学校に通う児童を持つ保護者に対して、月額16,000円を支給してきました。同様に、韓国、中華学校に通う児童を持つ保護者に対しては、月額15,000円を支給してきました。

このような金額は23区の中でも突出していました。額が多すぎるとの批判もあって、そのような保護者補助金は、通う学校を問わず、平成25年度より、一律8,000円に改められました。(参考:右表)

それを踏まえた上で、私がお伺いしたいのは、もっと補助金を減らせないかということです。

日本政府は1949年10月12日に以下のような閣議決定を行っています。



江戸川区内の外国人の人口(平成17年4月1日と平成26年4月1日比較)

国籍・地域	中国	韓国・朝鮮	フィリピン	インド	ベトナム	台湾	タイ	ネパール	米国	バングラデシュ	その他	合計
平成17年	8,335	5,391	2,655	693	103		346	27	220	185	1,713	19,668
平成26年	10,792	4,488	2,385	2,015	622	437	400	384	217	204	1,498	23,442

平成17年の台湾人の人口は、中国人の人口に含めて計算していました。平成25年以降、中国と台湾は別の国であるという考え方から台湾人は別枠で数えることになりました。

- 1 朝鮮人子弟の義務教育は、これを公立学校におこなうことを原則とする。
- 2 義務教育以外の教育をおこなう朝鮮人学校については、嚴重に日本の教育法令にしたがわせ、無認可学校は認めないこと。
- 3 朝鮮人の設置する学校の経営等は、自らの負担によっておこなわれるべきであり、国または地方公共団体の援助は1の原則から当然にその必要はない。

このような閣議決定があったにも関わらず、閣議決定は遵守されず、各自治体による自主判断により、補助金が支給されてきました。

これからの江戸川区にあっては、閣議決定の趣旨を今一度尊重すべきです。区長の見解はいかがでしょうか。

23区外国人学校児童、生徒の保護者補助金一覧

平成26年5月1日現在

	区名	H24・月額(円)	H26・月額(円)
1	千代田	6,000	6,000
2	中央	8,000	8,000
3	港	7,000	7,000
4	新宿	6,000	6,000
5	文京	7,300	7,300
6	台東	7,000	7,000
7	墨田	9,500	9,500
8	江東	8,000	8,000
9	品川	7,000	7,000
10	目黒	8,000	8,000
11	大田	11,000	11,000
12	世田谷	8,000	8,000
13	渋谷	8,000	8,000
14	中野	8,000	8,000
15	杉並	7,000	7,000
16	豊島	6,000	6,000
17	北	7,000	7,000
18	荒川	7,000	7,000
19	板橋	8,500	8,500
20	練馬	7,000	7,000
21	足立	6,000	6,000
22	葛飾	10,000(児童) 11,000(生徒)	10,000(児童) 11,000(生徒)
23	江戸川	16,000(朝鮮) 15,000(中韓)	平成25年度より 8,000

質問 4 (2) と質問 5 に対する答弁



多田 区長

今、約 23,500人ということで、2万人台を突破したのは平成 18年ですので、ここ 9年くらいは2万人をちょっと超して緩やかに増えてきているということで、激増しているというふうにはちょっと思っておりませんが、外国人の中で、つまり永住権を持っている人がかなりいます。おおむね 2,000人ということで、朝鮮半島の出身の方と、台湾ですね、これは戦後の処理ということにかかわるんですが、当時、終戦時に日本にいて、本国に帰れなかったという、いろいろな事情で、その人たちに永住権が与えられておりますので。

そういう人に対する政策として、つまり具体的にいえば、本国、朝鮮人学校とか、いろいろありますが、中華学校とかありますが、そういう当時永住権を持っていた人、それからその子どもたち、あるいは 2世 3世がもういますけれども、そういう人たちも本人が望んで日本に滞在するというのであれば、永住権が自動的に与えられると、こういうことでありますから、そういう人たちが本国の勉強をするとか、いろいろそういうことをしたいということであれば、それはぜひそういう環境を整えて、そうした願望を果たしていただくということがいいことだとそういうふうに私も思うわけですが、そういう視点を支援するということは考え方としてはいいのではないかと、そういうふうに思っていて、額の問題はいろいろありましたので、前回ちょっと手直しをさせていただきましたけれども、これをやめてしまうということには考えておりません。

それから、区によってどういう外国人が滞在をしているかということとは相当違います。違いまして、江戸川区は永住権を持っている人が結構多いほうだということに思っています。ですから、それなりのやっぱり歴史的経緯を踏まえていけば、これはやめるということとは、今考えないと。そういうことでございます。

質問 6：少子化・人口減少について



田中 けん

少子化の原因として専門家は 3つの原因を述べています。

- 1 . 都市への人口集中
- 2 . 女性の高学歴化
- 3 . サラリーマン家庭の増加

これらの命題が正しいとするならば、1 都市への人口集中を根拠に、江戸川区の人口が増えれば増えるほど、

日本全体の人口は減ってしまうという現象に拍車がかかります。まるでそれはゼロサムゲームのようです。

合計特殊出生率の統計を見れば明らかですが、全国最低値は東京都の 1.13 全国最高値は沖縄県の 1.94 都市では子どもが生まれにくく、地方では子どもが生まれやすいのは事実です。

都市への流入人口が増えれば増えるほど、日本全体の少子化は進んでしまいます。仮に今後江戸川区の人口が増えることをイメージしても、その実態は出産増ではなく、流入人口が増えることによる人口増でしかありません。それが日本全体の利益につながると言えるのでしょうか。

これからは緩やかな人口減少を歓迎し、それに沿った区政運営を区長に求めるものであります。いかがでしょうか。



質問 6 に対する答弁



多田 区長

少子化と人口減少問題で、江戸川区で人口が増えれば日本の少子化を加速させるというお話ですけれども、算術的にはそうかもしれません、それはちょっと一概にそういうふうに決めつけるわけにもいかないんだろうと思います。

東京が一極集中で増えれば、日本の地方の人口は減るでしょうということとは大きな意味では言えると思います。そういうことに歯止めをかけたいというのが、やはり今取り組まれている地方創生だと思いますけれども、それは人口問題というよりはむしろ、地方を活性化して、そして一極集中ということが、これは過去の一つの日本の国の形ですから、その形を変えて、地方に分散をさせていくという方策をとって、そこでただの分散ではなく、人口を増やすということだけではなく、そこに若い人たちが定住して、希望ある生活を送ることのできる条件をつくらうと。

こういうことの方角性ですから、まずは人口問題から入っているということよりは、そういうことから入って、そして少子化を止めよう。ということだと思いますので、私も江戸川区もこの人口問題にはそうした考え方に沿った動きを模索していくべきではないかというふうに思っております。

沖縄での禁煙学会参加と 辺野古の視察を報告します！



これまで足かけ4年にわたって、私は全国の県庁を訪れ、受動喫煙防止条例の制定を求める陳情活動をしてきました。11月1日(土)に沖縄県で行われた日本禁煙学会では、これまで私が続けてきた全国陳情活動が一巡した報告をしました。

「江戸川区が変わらないならば、まずは全国から」
この様な思いを私は胸に抱えています。社会を変えるのは、議会だけではありません。粘り強い活動を、私はこれからも続けていきます。

沖縄県庁前にて、
仲間と一緒に記念撮影



スクリーンの前で
報告する田中けん

学会が終わってから
視察した辺野古にて



11月16日は沖縄県知事選挙の投票日でした。選挙の争点となった辺野古を視察してきました。結果は、基地移転反対派の翁長雄志候補が当選しました。中国の脅威を警戒しつつも、田中けんは、地元沖縄県の民意を尊重する立場です。

スモークフリーキャラバンの会訪問自治体等一覧

名称	年月日	訪問地		
第1次 (東海道)	2011年9月17日	出発集会(横浜市)		
	18日	静岡県		
	19日	愛知県		
	20日	岐阜県	滋賀県	
	21日	京都府	奈良県	橿原市
	22日	和歌山県	大阪府	
	23日	兵庫県		
第2次 (東日本)	2012年3月31日	出発集会(東京都江戸川区)		
	2日	埼玉県	群馬県	
	3日	新潟県	山形県	
	4日	秋田県	青森県	青森市
	5日	岩手県		
	6日	宮城県		
	7~8日	日本禁煙学会学術総会(仙台市)		
	9日	福島県	栃木県	茨城県
第3次 (西日本)	2013年4月7日	出発集会(石和市)		
	8日	山梨県	長野県	
	9日	富山県	石川県	
	10日	福井県		
	11日	鳥取県	島根県	三次市
	12日	広島県	愛媛県	
	13日	新居浜市		
	15日	高知県	徳島県	
	16日	香川県	岡山県	
	17日	三重県		
第4次 (北海道)	2013年9月2日	帯広市		
	3日	北見市		
	4日	旭川市	岩見沢市	
	5日	北海道	札幌市	
	6日	小樽市	苫小牧市	
	第5次 (山口・九州)	2014年2月21日	山口県	福岡県
22~23日		日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会(福岡市)		
24日		長崎県	佐賀県	
25日		大分県		
26日		熊本県		
27日		鹿児島県		
28日		宮崎県		
第6次 (沖縄)	2014年11月14日	沖縄県	宜野湾市	
	15~16日	日本禁煙学会学術総会(宜野湾市)		

献金のお願

「月刊田中けん」発行の経費は1万円以上です。「田中けんを応援する会」の政治活動を経済的に支えてください。ご協力をお願いいたします。

注意

1. 受付は全て銀行振込です。
2. 年間5万円以下でお願いします。
3. 個人名義でお願いします。
4. 日本人に限ります。

お振込先

みずほ銀行 小松川支店
普通 1015472
田中けんを応援する会

小中学校をもっと広く・シンプルな行政が無駄のない政府・移民政策に反対



江戸川区議会議員

田中けん

www.t-ken.jp



電話番号 : 03-3248-0888 (平日9~18時まで)

自宅事務所 : 〒132-0021 江戸川区中央4-25-14
(敷地内奥、白いプレハブ)

* プロフィール *

松江三中卒、墨田川高校卒、千葉大学教育学部卒
1995年 江戸川区議選 (2789票・41位) 当選
1999年 同選挙 (4282票・16位) 当選
2001年 東京都議選 (1239票・8位) 落選
2003年 江戸川区議選 (4103票・15位) 当選
2007年 同選挙 (3883票・25位) 当選
2011年 同選挙 (3280票・41位) 当選

著作(共著)「外国人参政権」で日本がなくなる日 宝島社2010年
100人がしゃべり倒す!「魔法少女まどか マギカ」宝島社2011年

区議会日台親善議員連盟会長・禁煙地方議連代表幹事・ホームヘルパー2級